

連絡先 内閣官房国際博覧会推進本部事務局  
03-3519-3615

# 万博国際交流プログラム

## ①実施概要

大阪・関西万博に多くの国が参加することを契機に、全国各地域において、子ども・若者等の地域住民と万博参加国の関係者が地方公共団体の事業を通じ継続的に国際交流していく枠組みを設ける。

具体的には、万博の理念等への理解を深めるための事前学習を含め、地域の住民等と交流相手国の万博関係者や出身者等とが継続的に交流していくため地方公共団体が交流相手国と行っていく事業に対し、支援を行う。

※ 参加自治体は、交流計画の提出・国の審査を経て、登録・公表される。

### [交流タイプの例]

- ・万博前～会期中に相互往来等により相手国の文化、伝統芸能等を習得して、相手国のナショナルデーのイベントを共同実施する。
- ・万博前後に相互往来等を行って相手国の歴史や文化を理解するとともに、万博開催中に来日した相手国の万博関係者を地元へ招いて、講演会や住民との交流イベント等を開催する。

(実施主体) 地方公共団体

(実施場所) 会場内（催事場などナショナルデーイベント会場等）

会場外（各地方公共団体や交流相手国に所在する講演会場・交流施設その他施設等）

(実施期間) 2024年度～



## ②今後の実施方針

交流に関するモデル事業を実施し、交流内容及び支援の仕組みの検討を進める。

## ③予算

令和4年度補正予算額：214百万円の内数

令和5年度概算要求額：425百万円の内数

## ④工程表



# 万博国際交流プログラムの目的

- ✓「未来社会の実験場」を掲げる2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）には、様々なテーマ・キーワード
- ✓その多くは、地域の課題解決に重要であるのみならず、交流相手国に共通であったり先行事例が豊富なケースも  
⇒ 交流の実施が、**新たな気づき**や**先進的知見**獲得の好機に
- ✓参加型の側面が強くなっている最近の万博にあって、国際交流という形で地域の課題解決に向かって取り組むことも、**万博への参加の一つの形** ⇒「万博への参加」が交流による刺激・地域の課題解決の契機に



万博参加国・地域との相互交流を通じて、住民に地域の未来・課題と可能性をよりいっそう強くイメージしてもらい、住民の価値観や行動の転換点となるよう、**大阪・関西万博を契機**に取り組むべき**課題解決**や**地域活性化**を後押し



## 活用例

- SDGsへの理解促進、国際人材の育成、イノベーション機会の創出、関係人口の創出拡大 等

# 令和5年度の万博国際交流プログラム①

～万博を契機に、大阪・関西でも全国でも、地方公共団体と万博の参加国・地域の相互交流  
→2025年以降を見据えた地域活性化等の足掛かりに！

## 対象となる交流

以下の3つをすべて行う交流（2026年3月末までに達成すれば良い）

1. 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、パビリオンの準備・運営等に関わる者との交流
2. 万博参加国・地域の関係者との交流
3. 万博の企画・運営等に関わる日本人等との交流

【対象となる交流の例】 対面交流・オンライン交流とも対象

- ◆相手国の文化体験、相手国にまつわるイベントや上記関係者を招いた講演会等の開催
- ◆上記関係者に自治体の魅力を体験してもらいイベントや住民との交流会の開催
- ◆住民による相手国のナショナルデーイベントへの参加
- ◆相手国の青少年等との交流

## 事業実施主体

- ◆地方公共団体（都道府県でも市区町村でも可）
- ◆二以上の地方公共団体による連携も可（都道府県と市区町村の組合せも可）



# 令和5年度の万博国際交流プログラム②

## 対象となる交流（例）

### 【万博会期前】

- 自治体の住民が、交流相手国も直面する課題等も含め、万博の意義やテーマ等に関連づけて考える意見交換等（「ジュニアEXPO2025教育プログラム」を含む）



（ジュニアEXPO2025教育プログラム学習読本）

- 相手国関係者と文化交流・産業交流等のイベントの実施

### 【万博会期中】

- 万博イベントのスピーカーを招請して共通課題解決に向けた講演会を開催
- ナショナルデー等万博会場における催事に交流自治体の住民が参加して、相手国の参加者との交流（合唱、舞踊等の共同実施等）



- 相手国関係者（ナショナルデーに参加したパフォーマー等）を招いて住民との交流会を実施

### 【万博会期後】

会期前・会期中の意見交換等を土台にしつつ、

- 相手国との交流や勉強会などの交流事業を継続して実施
- 各種交流イベントの実施
- 相手国と相互訪問して課題について取組みを継続

※万博後も継続して実施が見込まれる交流事業計画とすることが必要です

# 令和4年度万博国際交流プログラムの調査事業①

## 栃木県那須塩原市×オーストリア



那須塩原市



### ● 交流のきっかけ

- ・ 那須塩原市ゆかりの明治・大正時代の外交官青木周蔵の子孫が、オーストリア第3の都市リンツ市に在住
- ・ その縁で平成17年度からリンツ市と中学生の交流（平成28年～ 姉妹都市）
- ・ オーストリアのホストタウンだったが、コロナ禍でリアル交流ができず（オンライン交流は実施）
- ・ 万博参加国との交流を行うことで子供たちが万博に参加できる

### ● 交流活動の概要

#### 音楽を通じた青少年の交流 ～那須塩原市とリンツ市の中学生・高校生が学校単位で交流

- 市立中学校の生徒約20人と、リンツ市の中高等学校で音楽を学ぶ生徒約50人が参加してオンラインで交流
- 互いに合唱を披露したほか、海外でも広く歌われている日本の曲「浜辺の歌」を一緒に合唱
- あわせて、大阪・関西万博や双方の学校生活、自分達の未来などについて意見交換



合唱を通じ相互の一体感が醸成され、オーストリアや万博オーストリア・パビリオン、万博・未来社会への関心が高まる



### 2025年に向けた交流の展開例

オンラインでの合唱交流を継続

万博開催期間には、学校に受け継がれてきた交流の成果を披露（その舞台として例えばナショナルデー等を検討）

交流に参加した生徒たちを中心に、オーストリアパビリオンを応援（パビリオン訪問、オンライン等）

中学生等の相互訪問等、直接交流の再開（万博や相互の文化・未来社会に関する意見交換を含む）

万博が、青少年の交流の成果披露の機会となるとともに、  
未来社会・文化交流等への関心・相互理解の契機に

# 令和4年度万博国際交流プログラムの調査事業②

## 兵庫県三木市×フランス



三木市



- 交流のきっかけ
  - ・ フランス陸上チームのホストタウン
  - ・ 人口減少が不可避の中、海外との交流が需要拡大・ブランド力向上等の機会となるとの認識  
(契機：フランスのぶどう生産者が腱鞘炎に悩むとの課題に、三木特産の金物技術による剪定鋏開発が一助に)



## ● 交流活動の概要

### 地域産業・文化の交流

- 京都のフランス政府文化広報センターのマルシェで、フランス人シェフ・ソムリエ等に特産品の包丁を紹介
- 西日本を管轄する在京都フランス総領事を招き、打ち刃物製造や鉋製造技術を活かした鯉節削り体験を実施



特産の金物の良さ・文化を感じてもらいつつ、フランス料理店や料理学校ともつながる

### 若い世代がフランス文化等を学ぶ交流

- 総領事によるフランス文化の講義・意見交換（市立中学校）／仏政府公認団体主催フランス語授業（市内県立高校）
- 日本滞在中のフランス若手芸術家等に対する文化体験プログラム



## 2025年に向けた交流の展開例

交流を継続し、万博開催期間に開催されるナショナルデー等で、

晩餐会で提供するフランス料理に三木市産酒米使用の日本酒や、地域の食材や鯉節削り器で削った鯉節を使い、特産品とのコラボレーションを実現

参加したフランス側関係者を三木市の金物の良さ・文化に触れる又は実感できる体験イベントに招待

来場者に生徒たちがパビリオンの案内や特産品の紹介をフランス語等、自分の言葉で行う

若年世代の交流（両市の高校生が相互訪問、フランス人大学生をインターン受入等）

万博を契機として、  
地域のブランド力が向上